

令和5年度 武山支援学校評価報告書

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月27日実施)	総合評価(3月15日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	児童・生徒の実態やニーズに応じた教育内容を、小学部から高等部まで系統的に再編成し、教育課程の改善を図る。	①学習指導要領に基づき、学習単元を整理し、小中高12年間及び家庭、地域生活を考慮した「系統性・連続性」のある教育課程の編成を推進する。 ②児童・生徒の実態やニーズを踏まえ、学びの連続性や学部間の系統性の視点を持ち、「身につけさせたい力」を柱にした教育内容の改善を進める。	①「系統性・連続性」のある学習単元・授業内容を整理し、期末に年間指導計画等を振り返り、次の学期の計画を見直し、児童・生徒の連続性のある学びにつなげる。 ②PDCA サイクルによる授業改善に取り組み、「身につけさせたい力」について、担任や保護者、関係機関と共有し、個々の実態やニーズに応じた継続性のある授業実践を進める。	①年間指導計画に「系統性・連続性」のある授業内容・学習単元に取り組み、児童・生徒の連続性の学びにつなげることができたか。 ②PDCA サイクルにより授業改善を行い、児童・生徒の実態やニーズに合った教育実践が図れたか。	①年間指導計画や学習単元の見直し、内容の精選や授業改善を行い連続性のある学びにつながった。 ②PDCA サイクルを活用し、授業毎に振り返り、「身につけさせたい力」を意識した授業改善を実施できた。	①年間指導計画の書式を変更し、各教科の目標や学習内容の明確化を図る。 ②単元配列表を活用することで学年学部をこえて教科担当者 と共有し、系統性のある授業実践につながる。	<保護者> 87%がよい評価 <学校運営協議会> 集団の中で、一人ひとりが生き生きと過ごせる取り組みを続けてほしい。 <保護者> 90%がよい評価 <学校運営協議会> 個々のニーズに沿った学習活動が展開されている。	①年間指導計画や学習単元を見直し、内容の精選や授業改善ができた。各教科の目標や学習の明確化を図れる年間指導計画を作成し、連続性のある学びにつなげる必要がある。 ②担任間において、授業ごとに振り返り、授業改善を実施できた。小中高の連続性をより意識した学習内容、キャリア教育の整理が課題である。	①ねらいを整理し、年間指導計画の書式を作成、単元配列表を活用し、「継続性・連続性」のある授業改善を継続して進めていく。 ②学習内容やキャリア教育について、「継続性・連続性」の視点で構成し、実態に応じた継続性のある授業改善に取り組む。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	主体的に生きる児童・生徒を目指し、一人ひとりに応じたきめ細かい指導・支援を組織的に行う。	①児童・生徒理解を深め、保護者や関係機関等と連携し、個々の実態やニーズに応じた丁寧な指導・支援を組織的に行う。 ②フォーマルアセスメント等を活用し、児童・生徒一人ひとりの実態を客観的に把握し、「わかる」「できた」と実感し、主体的に学ぶことができる授業を実践する。	①個別教育計画の様式の改訂を行い、作成の過程で保護者や関係機関等と共通理解を図る。 ②各学部において適切な時期にフォーマルアセスメントをとり、その結果をケースカンファ等にて共有、検討を行い、保護者や関係機関と連携し、個々のニーズに応じた効果的な指導・支援を行う。	①的確な実態把握から個に応じたきめ細かい指導・支援を組織的に行うことができたか。ICT活用等を工夫し、「わかる授業」が展開できたか。 ②ケースカンファを計画的に行い、フォーマルアセスメントの結果に基づいた児童・生徒が主体的に学ぶことのできる授業実践を行うことができたか。	①個別教育計画の様式変更等の検討を行った。授業で効果的にICTが活用され、児童・生徒が興味関心をもって授業に参加できた。 ②各学部において計画的にフォーマルアセスメントを実施することができた。各学部でケース検討を行い、課題解決を図り、「わかる」授業に努めた。	①年間指導計画の様式変更を行い、個別教育計画で指導と評価の一体化が図れるようにする。 ②次年度、フォーマルアセスメントの取り組み時期と活用が効果的に行えるよう計画的に取り組む。	<保護者> 89%がよい評価 <学校運営協議会> 個別教育計画が関係者間で共通のツールとなり、ICT機器の活用により、効果的な活用を引き続き実践してほしい。 <保護者> 86%がよい評価 <学校運営協議会> アセスメントを実際の学習活動や日常生活の指導に上手く活用してほしい。	①ICT活用等により、児童生徒が興味関心をもって授業に取り組めた。個別教育計画が関係者間で共通のツールとなる工夫が必要である。 ②児童生徒の実態把握について丁寧に行い児童生徒の理解につながったが、アセスメントの結果を指導支援につなげるにはまだ課題がある。	①一人ひとりの将来像を想定し、「身につけさせたい力」を保護者や関係機関と共有し、個に応じた指導・支援を行う。 ②各学部の適切な時期にフォーマルアセスメントを実施し、結果を効果的に指導に活用し、その結果等を保護者と共有する。
3	進路指導・支援	児童・生徒が地域で豊かに生きていくために、本人及び保護者のニーズに応じたキャリア教育を行う。	①キャリアパスポートを活用し、「できた」という成功体験を積み重ね、次のステージへ児童・生徒が自信をもって取り組めるキャリア教育を実践する。 ②地域や関係機関と連携を図りながら、児童・生徒や保護者が卒業後の生活がイメージで	①ライフステージに沿った指導・支援になるようスモールステップで成功体験を積み重ね、各学部でキャリアパスポートを作成、活用し、保護者と共有する。 ②進路説明会や個人面談、タウンミーティング、公開講座を活用し、進路や卒業後の生活に関する情報を発信する。	①成功体験を積み重ね、児童・生徒が自信をもって活動に取り組めることができたか。キャリアパスポートを活用し保護者と共有することができたか。 ②児童・生徒、保護者に対して、卒業後の生活に関する情報を十分に提供することができたか。	①学部部門ごとのキャリアパスポートの書式を整え、活用した。 ②進路だよりを活用して各学部に応じた進路の情報を知らせたり、本人や保護者のニーズ	①キャリアパスポートの意義や目的について教員間では共通認識を図れたが、保護者との共有ができていなかった。 ②本人保護者が卒業後の生活をイメージし疑問や不安が解消できるよう情報提供をするとともにニー	<保護者> 76%がよい評価 <学校運営協議会> 卒業後、働き続けられるために必要な力をつけることも取り組んでほしい。 <保護者> 79%がよい評価 <学校運営協議会> 今後も引き続き、地域や関係機関が連携し、卒	①キャリアパスポートについて教員の理解を深めることができ、児童生徒と作成することができた。 ②進路だよりの配付やタウンミーティング等を活用して、保護者へ情報提供することができた。	①キャリアパスポートを積極的に活用し、保護者と共有しながら、自己理解を深め、自信をもって、次のステージに挑戦する力を育む。 ②児童生徒や保護者にわかりやすい情報発信の工夫を行っていく。また、保護者が小学部の段階から卒業後の生

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月27日実施)	総合評価(3月15日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			きるよう情報やニーズに応える情報を提供する。			に合った研修会を行ったりした。	ズに合った研究会の企画と参加しやすい工夫を行う。	業後の支援を行ってほしい。		活について考えられるよう教員がより進路について知り、情報提供・相談ができるようにする。
4	地域等との協働	共生社会の実現に向け、地域との相互資源活用や理解推進に取り組む。インクルーシブ教育実践推進校と連携し、支援・推進する。	①地域の学校との交流及び共同学習の定着を進め、校内外の資源を相互に活用した学習を展開し、相互の理解推進を図る。 ②センター的機能を発揮し、地域との連携を含め、インクルーシブ教育の推進を図り、地域の学校等と協働した取り組みを進める。	①各学部の実態に応じた交流及び共同学習を実現可能な方法で計画し、地域の学校や関係機関と連携して取り組む。本校の教育活動をインターネット等活用し、地域へ幅広く発信することができたか。 ②居住地交流、学校間交流や校外活動を通して、教職員一人ひとりがセンター的機能の役割を果たし、地域の学校等のニーズを把握し、関係部署と連携し、組織的に支援を行う。	①実態に応じた交流及び共同学習を実施することができたか。また、本校の教育活動をインターネット等活用し、地域へ幅広く発信することができたか。 ②全教職員がセンター的機能を理解して役割を果たすことができたか。組織的な支援体制を整えることができたか。	①各学部部門ともに相手校と連携を図り学校間交流や共同学習を実施できた。X(旧Twitter)やGoogleClassroom等を活用して教育活動を幅広く発信した。 ②交流や共同学習及び、校外活動、巡回相談を通して、それぞれのニーズを知り、必要に応じて組織的に支援を行えた。	①HPの必要な更新を行いながら保護者や地域へ本校の教育活動を計画的に積極的に情報発信する。 ②学校全体としてセンター的機能を果たすため、本校の役割を全職員が理解し、各自でできることから実践していく。	<保護者> 88%がよい評価 <学校運営協議会> GoogleClassroomや「X」を今後も活用し、保護者や地域へ学校の取組を発信してほしい。 <保護者> 77%がよい評価 <学校運営協議会> 地域との交流や居住地交流等、積極的に取り組んでいることがわかる。今後も積極的に取り組んでほしい。	①各学部部門とも居住地交流や学校間交流、および共同学習を実態に応じた内容で実施できた。また、本校の教育活動について、インターネット等を活用し発信できた。 ②交流及び共同学習、校外活動、巡回相談を通して、組織的に行うことができたが、本校の役割を全職員が理解し実践またはニーズをつかむにはまだ課題が残る。	①ねらいを意識して、地域の学校との交流及び共同学習に取り組み、保護者や地域へ計画的に幅広く発信していく。 ②それぞれの学部の教育活動や交流及び共同学習を通して、教員が地域や近隣の学校とかわっていく。また、高等学校のニーズを把握し、支援体制を整える。
5	学校管理 学校運営	安心・安全な学校であるための体制の整備を進める。働き方改革を進めるとともに、人権を大切にしたい「支え合い・学び合い」の職場づくりを推進する。	①学校安全計画に基づき、児童・生徒の安心・安全な教育環境の整備、安全教育等に組織的、継続的に取り組む。 ②教職員の人権意識等の向上を図り、教職員一人ひとりが共生社会の一員であることを自覚し、児童・生徒の思いに寄り添い、他者との対話を重視し支え合う教育活動を実践する。	①教職員が校内で作成されたマニュアルを実用的なものになっているか訓練毎に点検し、教育環境の整備やマニュアル改善を行う。児童生徒に安全教育を計画的に実施し、自分を守る力をつける。 ②学部単位や学校全体での人権研修、不祥事防止研修を実施し、互いの人権意識や同僚性の向上を推進する。人権を大切に表現の一つとして、児童・生徒間や教職員で「さん」づけで呼び合えるよう推奨し、定着を図る。	①訓練や実用時にマニュアルを的確に活用し、安心安全な教育環境の整備や実用的なマニュアル改善が行えたか。安全教育が適切に行われ、児童生徒が自分を守る力をつけることができたか。 ②研修会を通して、互いの人権意識や同僚性の向上が図れたか。「さん」づけで呼び合うこと意識し、定着することができたか。	①校内の安全点検について定期的な点検と合わせてフローチャートや依頼票の活用を促し、早期修繕につなげた。訓練後の振り返りから安全を確認しながらマニュアルの改訂を行った。 ②外部講師を招聘した研修や職員啓発点検表を活用した研修を行い、人権意識の向上につながった。「さん」づけについては、おおむね定着してきている。	①必要な状況にすぐ対応できるよう、様々なグループ、チームで作成している既存のマニュアルの一元化を行う。 ②どんな状況でも「さん」づけできるよう定期的に振り返り確認する。各学部での研修を今後も企画し、互いの人権意識や同僚性の向上を推進する。	<保護者> 88%がよい評価 <学校運営協議会> 学校教育を安全に行うために、引き続きマニュアル等を見直し、教職員間の共有を図ってほしい。 <保護者> 91%がよい評価 <学校運営協議会> 児童生徒の自己肯定感を高めるためにも「さん」づけを推奨し、定着を目指してほしい。	①各種マニュアルについて、実用的なマニュアルに改善された。引き続き、実態に応じて改定を行っていく必要がある。 ②不祥事防止研修等を通して、児童生徒や同僚への人権意識を高めることができた。「さん」づけについてはおおむね定着している。	①教職員一人ひとりが各種マニュアルを理解し、児童生徒の安全が確保できるようにする。 ②教職員一人ひとりが人権意識や同僚性を高め、人権を大切にしたい教育活動と職場づくりを展開する。